

施策番号 1-1-1	施策名 担い手育成と農業の応援団づくり	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり			
		政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	我妻 修一	内線	242
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
農業経営体の育成と新たな担い手の確保を推進し、町民の「食」と農業に対する理解の促進を図り、持続可能な農業による活力あるまちづくりを目指します。		農業経営体 町民		・農業経営体の育成と新たな担い手確保による、経営の安定、拡大 ・担い手への農地集積 ・町民の「食」に対する理解促進				専業経営を中心とした、発展・持続する土地利用型農業の推進	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度目標		
① 新規就農者数(後継者就農を含む)	農林課調べ	人	58	8 (8)	11 (19)	14 (33)	50	※実績値下段()内は累計(目標対比)	
② 認定農業者等の担い手への農地集積率	農林課調べ	%	95.6	95.3	95.6	95.9	95%以上		
③ 日頃、地産地消を意識して買い物をしている町民の割合	住民意識調査	%	75.8	83.8	84.0	86.4	80.0		
成果指標設定の考え方	①新たな担い手確保における成果として、新規就農者数を指標とし、期間内に50人を目指すもの。 ②農業経営の基盤となる農地をできるだけ担い手に集積するという考え方から、農業委員会による本調査数値を成果指標とし、現状維持を図っていくもの。 ③農業への理解と郷土愛醸成の指標として、本調査の割合を高水準で維持することを目指すもの。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算
施策事業費(千円)	2,224,135	35,084	88,756	171,043
人工数(業務量)	4,7540	4,5469	2,4198	2,4385

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2021年度の成果評価(前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	・新規就農者、農地集積率、地産地消への意識、いずれも高水準を維持
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・新規就農者や労働力確保のための新たな体制構築により、取り組みのさらなる推進が図られ、目標達成が期待できる。 ・「食農理解促進事業」の継続、定着、充実により、地産地消の意識の高まり、郷土愛の醸成など、農業の応援団が増えることが期待できる。
(2) 施策の成果評価に対する2021年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業担い手育成支援事業 食農理解促進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・自主的活動支援事業補助金により、担い手の自主的な研修・研究活動への支援を継続実施した。 ・農業後継者のスムーズな就農を支援するため、JAめむろと連携を密にし「新農業経営育成システム」を継続実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度は中止とした「食農教育」について、指導農業者・農業者会、JA芽室の協力を得て、教育委員会と連携し実施した。 ・新たな担い手(新規就農者、労働力、農業後継者の配偶者)確保のための体制構築に向け、JAめむろ、農業委員会と協議を進めた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	成果指標については項目によって増減があるが、「食農理解促進事業」の継続実施や関係機関と連携した担い手確保対策の検討・推進により、施策の方針実現に向かって前進していると考ええる。	進捗結果	A	B	C	D	E
							○

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・農業現場における労働力不足は、農業の安定経営や将来にわたって耕作放棄地を発生させないために解決すべき大きな課題であり、中・長期的な視点による対策が必要となっている。 ・めむろ農業の応援団づくり、それによる郷土愛醸成のため、農業の魅力を発信・体験することができる「食農理解促進事業」の定着、さらなる充実が必要となっている。 ・コロナウイルス感染症、国際情勢の変化などにより、地産地消意識のさらなる醸成、国産農畜産物への回帰の動きが見られる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・農業現場における労働力確保対策

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手確保のため、農業再生協議会に「担い手支援部会(委員会)」を設置し、短期実習制度や居住場所確保の検討など、受入体制を構築する。 ・食農教育は、指導農業士・農業士会、JAめむろ、教育委員会(学校)と意見交換し、毎年度見直しを図りながら定着を図る。 ・農業小学校は、指導者の確保を図りつつ、その他の主体(地元農業関連企業等)との連携も模索し、さらなるメニュー充実を図る。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
							○

今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した
-------------	--------------------	---

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	成果指標等から、「C前進した」と評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
							○

今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・移住を含めた新規就農者数を伸ばしていただけるように御尽力いただきたい ・ふるさと納税の返礼品を芽室の農産物にして、ふるさと納税アップに向けて関係課と協力し、取り組んでいただきたい 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した
-------------	---	---